

<大学院医学系研究科における学位論文に係る評価に当たっての基準について>

本研究科及び各専攻（保健学専攻を除く）が定める手続きにより提出された学位申請論文は、以下の体制及び基準に従って審査する。

1. 修士論文

1.1 審査体制

論文審査に当たる審査委員会を設置する。審査委員会は、教授会において委嘱する3名以上の委員をもって組織し、主査1名、副査2名以上を置くものとする。主査及び副査になれる者は次のとおりとする。なお、本研究科教授会において審査のために必要があると認めるときは、他の大学院等の教員等の協力を得ることができる。

- ・ 主査になれる者は、当該論文内容の専門分野と関係の深い学術領域に精通し、学術的な視点からの修士論文の審査等全てが円滑に進むよう統括できる者とする。
- ・ 副査になれる者は、当該論文内容の専門分野に関係の深い学術領域に精通し、審査において専門的な意見を述べるることができる者とする。

1.2 審査の方法

学位論文の審査においては、当該論文の内容に関する発表会を実施する。また、学位申請者は、以下の論文評価の各項目について、主査と副査による査読、及び口頭試問を受ける。なお、当該論文内容の特性を反映した評価項目を追加することができる。

1.3 評価項目及び基準

医科学コース

○論文内容

- ・ 研究倫理を順守している。
- ・ 幅広い医学の基礎知識と、最先端の医学研究に裏付けられた医科学に関する内容である。
- ・ 得られた研究データや解析結果を正しく評価し、結論を導いている。
- ・ 得られた結果と課題について考察できている。
- ・ 論文が論理的で且つ、わかりやすく構成されている。

○研究発表能力

- ・ プレゼンテーションの資料が適切である。
- ・ 発表が論理的で且つ、わかりやすく構成されている。
- ・ 研究における成果や課題について、適切な表現で発表できる。

○質疑応答能力

- ・質問の内容を理解し、幅広い医学の基礎知識と研究課題に対する専門性の高い知識に裏付けられた適切な回答ができる。
- ・自分の考えを的確に伝えることができるコミュニケーション能力を有している。

未来臨床科学コース

○論文内容

- ・研究倫理を順守している。
- ・幅広い医学の基礎知識と、最先端の医学研究に裏付けられた未来臨床科学に関する内容である。
- ・得られた研究データや解析結果を正しく評価し、結論を導いている。
- ・得られた結果と課題について考察できている。
- ・論文が論理的で且つ、わかりやすく構成されている。

○研究発表能力

- ・プレゼンテーションの資料が適切である。
- ・発表が論理的で且つ、わかりやすく構成されている。
- ・研究における成果や課題について、適切な表現で発表できる。

○質疑応答能力

- ・質問の内容を理解し、幅広い医学の基礎知識と研究課題に対する専門性の高い知識に裏付けられた適切な回答ができる。
- ・自分の考えを的確に伝えることができるコミュニケーション能力を有している。

公衆衛生学コース

○論文内容

- ・研究倫理を順守している。
- ・幅広い医学の基礎知識と、最先端の医学研究に裏付けられた公衆衛生学に関する内容である。
- ・得られた研究データや解析結果を正しく評価し、結論を導いている。
- ・得られた結果と課題について考察できている。
- ・論文が論理的で且つ、わかりやすく構成されている。

○研究発表能力

- ・プレゼンテーションの資料が適切である。
- ・発表が論理的で且つ、わかりやすく構成されている。

- ・研究における成果や課題について、適切な表現で発表できる。

○質疑応答能力

- ・質問の内容を理解し、幅広い医学の基礎知識と研究課題に対する専門性の高い知識に裏付けられた適切な回答ができる。
- ・自分の考えを的確に伝えることができるコミュニケーション能力を有している。

死因究明学コース

○論文内容

- ・研究倫理を順守している。
- ・幅広い医学の基礎知識と、最先端の医学研究に裏付けられた死因究明学に関する内容である。
- ・得られた研究データや解析結果を正しく評価し、結論を導いている。
- ・得られた結果と課題について考察できている。
- ・論文が論理的で且つ、わかりやすく構成されている。

○研究発表能力

- ・プレゼンテーションの資料が適切である。
- ・発表が論理的で且つ、わかりやすく構成されている。
- ・研究における成果や課題について、適切な表現で発表できる。

○質疑応答能力

- ・質問の内容を理解し、幅広い医学の基礎知識と研究課題に対する専門性の高い知識に裏付けられた適切な回答ができる。
- ・自分の考えを的確に伝えることができるコミュニケーション能力を有している。

1.4 学位論文が満たすべき水準

上記のコース毎に規定する評価項目を全てを満たす場合、修士論文として合格とする。

2. 博士論文

2.1 審査体制

論文審査に当たる審査委員会を設置する。審査委員会は、教授会において委嘱する 3 名以上の委員をもって組織し、主査 1 名、副査 2 名以上を置くものとする。主査及び副査になれる者は次のとおりとする。なお、本研究科教授会において審査のために必要があると認めるときは、他の大学院等の教員等の協力を得ることができる。

- ・ 主査になれる者は、当該論文内容の専門分野と関係の深い学術領域に精通し、学術的な視点からの博士論文の審査等全てが円滑に進むよう統括できる者とする。
- ・ 副査になれる者は、当該論文内容の専門分野と関係の深い学術領域に精通し、審査において専門的な意見を述べるることができる者とする。

また、論文審査に先立ち研究成果の背景、内容、発展性についての議論をより広く深く行うために予備審査会を実施する。予備審査会については、別に定める。

2.2 審査の方法

学位論文の審査においては、当該論文の内容に関する発表会を実施する。また、学位申請者は、以下の論文評価の各項目について、主査と副査による査読、及び口頭試問を受ける。なお、当該論文内容の特性を反映した評価項目を追加することができる。

2.3 評価項目及び基準

○論文内容

- ・ 研究倫理を順守している。
- ・ 専門分野における高度な専門性と深い学識に裏付けられている。
- ・ 専門分野における学術的意義、新規性、創造性等を有しており、国際的な評価に耐える水準に達している。
- ・ 論文が論理的で且つ、わかりやすく構成されている。
- ・ 得られた研究データや解析結果を正しく評価し、結論を導いている。
- ・ 得られた結果と課題について考察でき、今後の発展について明確な展望を持っている。

○研究発表能力

- ・ プレゼンテーション資料が適切であり、わかりやすく構成されている。
- ・ 発表が論理的で且つ、わかりやすく構成させている。
- ・ 研究における成果や課題について、適切な表現で発表できる。

○質疑応答能力

- ・ 質問の内容を理解し、専門分野における高度な専門性と深い学識に裏付けられた適切な回答ができる。
- ・ 自分の考えを的確に伝えることができるコミュニケーション能力を有している。

2.4 学位論文が満たすべき水準

上記の評価項目の基準を全てを満たす場合博士論文として合格とする。